

## 猫汎白血球減少症

エンベなし

病原体: パルボウイルス  
⇒エンベロープもたない, DNAウイルス

### ◆ポイント

- ・ウイルスは**エンベロープを持たない**ので, グルタルアルデヒドや次亜塩素酸ナトリウムが有効(アルコールは無効)  
※ポピドンヨードも有効だが, 環境や器物への使用は不向き
- ・感染経路: 経口・経鼻  
(糞便に汚染された環境から感染)
- ・発熱や嘔吐に始まり, 進行すると血便を呈する
- ・ワクチン未接種であれば, 致死率は約90%と高い
- ・妊娠中に感染すると胎子は小脳形成不全から運動失調を呈することがある
- ・ワクチンあり(コアワクチン)

## 猫カリシウイルス感染症

エンベなし

病原体: カリシウイルス  
⇒エンベロープもたない, RNAウイルス

### ◆ポイント

- ・ウイルスは**エンベロープを持たない**ので, グルタルアルデヒドや次亜塩素酸ナトリウムが有効(アルコールは無効)  
※ポピドンヨードも有効だが, 環境や器物への使用は不向き
- ・感染経路: 接触感染・くしゃみなどの飛沫感染
- ・発熱, くしゃみ, 鼻汁に始まり, 口腔内潰瘍(舌や口腔内)→流涎
- ・有効な治療法はないが, インターフェロン療法などがある
- ・ワクチンあり(コアワクチン)

## 猫ウイルス性鼻気管炎

病原体: ヘルペスウイルス  
⇒エンベロープ持つ, DNAウイルス

### ◆ポイント

- ・感染経路: 接触感染・くしゃみなどの飛沫感染
- ・発熱, くしゃみ, 鼻汁に始まり, 口腔内潰瘍(舌や口腔内)→流涎
- ・有効な治療法はないが, インターフェロン療法などがある
- ・ワクチンあり(コアワクチン)

※ヘルペスウイルスは症状が消失しても体内に残る⇒キャリア

## 猫免疫不全ウイルス感染症 (FIV)

病原体: 猫免疫不全ウイルス(FIV)  
⇒エンベロープ持つ, RNAウイルス  
※レトロウイルス科に属する

### ◆ポイント

- ・感染猫との接触や**咬傷**により感染
- ・5つ症状のステージ(病期)
  - ①急性期
  - ②無症候性キャリア期
  - ③持続性全身性リンパ節期
  - ④エイズ(AIDS)関連症候群期  
⇒免疫異常が出現する
  - ⑤エイズ期  
⇒著しい体重減少, **日和見感染**



ELISA法  
(イムノクロマトグラフィー法)

## パルボウイルス感染症

エンベなし

病原体: パルボウイルス  
⇒エンベロープもたない, DNAウイルス

### ◆ポイント

- ・犬では, 犬パルボウイルス感染症, 猫では, 猫斑白血球減少症
- ・ウイルスは**エンベロープを持たない**ので, グルタルアルデヒドや次亜塩素酸ナトリウムが有効(アルコールは無効)  
※ポピドンヨードも有効だが, 環境や器物への使用は不向き
- ・感染経路: 経口・経鼻  
(糞便に汚染された環境から感染)
- ・発熱, 血便(トマトジュース様), 子犬では, 心筋炎となり突然死することもある
- ・ワクチンあり(コアワクチン)

## 狂犬病

人獣

病原体: 狂犬病ウイルス(ラブドウイルス)  
⇒エンベロープ持つ, RNAウイルス, 弾丸状



### ◆ポイント

- ・すべての哺乳類に感染⇒発症するとほぼ100%の致死率
- ・感染動物の唾液中に含まれ, 咬傷により感染する(→末梢神経にウイルスが侵入し, 脳や脊髄へ移行する)
- ・徘徊, 興奮, 攻撃的になるなどの神経症状⇒麻痺⇒昏睡状態⇒死亡
- ・有効な治療法なし(暴露後にワクチン接種する方法はある)
- ・**狂犬病予防法**(所管: 厚生労働省)により飼い犬の登録と年1回のワクチン接種義務付け  
⇒輸入検疫対象動物: 犬, 猫, アライグマ, キツネ, スカンク

## 犬ジステンパー

病原体: ジステンパーウイルス  
⇒エンベロープ持つ, RNAウイルス

### ◆ポイント

- ・感染力が強く致死率も高い
- ・ワクチンあり(コアワクチン)
- ・感染犬の鼻汁や唾液などとの接触, 飛沫感染(他党飼育環境では急速に蔓延)
- ・無症状のものから死亡までさまざまな程度の症状; 発熱, 鼻汁, 結膜炎, 白血球減少⇒消化器症状や肺炎⇒けいれんなどの神経症状
- ・鼻や肉球などの角化亢進(ハードパッド)
- ・有効な治療法なし



## 犬アデノウイルス感染症

エンベなし

病原体: アデノウイルス  
⇒エンベロープもたない, DNAウイルス

### ◆ポイント

- ・犬伝染性肝炎(アデノウイルス1型), 犬伝染性喉頭気管炎(アデノウイルス2型)
  - ①犬伝染性肝炎  
・感染犬の唾液や尿などから経口感染  
・発熱, 呼吸器・消化器症状, 黄疸, 粘膜出血, 神経症状, 「ブルーアイ」を呈する
  - ②犬伝染性喉頭気管炎  
・感染力が強い(ケンネルコフの原因のひとつ)  
・飛沫感染  
・発熱, 咳などの呼吸器症状

アデノウイルスはエンベロープもたないので**グルタルアルデヒド**や**次亜塩素酸ナトリウム**が有効

## 皮膚糸状菌症

人獣

病原体:糸状菌(真菌)  
⇒犬小孢子菌, 石膏状小孢子菌  
毛癬白癬菌など

### ◆ポイント

- ・脱毛を主症状とする感染症で多くの動物が感染する
- ・感染動物との接触感染
- ・円形の脱毛や掻痒, 免疫力の低下により感染リスク↑
- ・犬小孢子菌はウッド灯により蛍光を発する
- ・抗真菌薬(イトラコナゾールやケトコナゾールなど), 外用薬, シャンプー, 毛刈りも有効



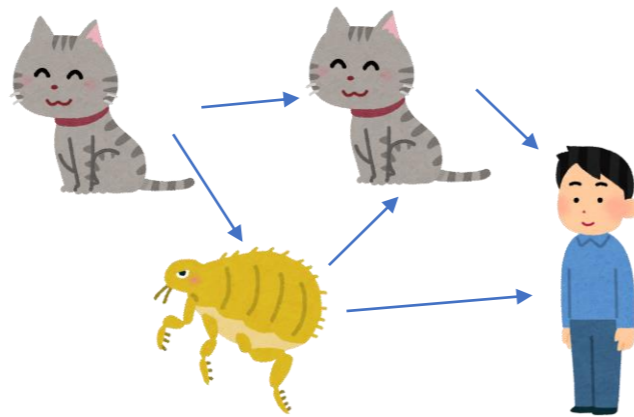
## 猫ひっかき病

人獣

病原体:細菌(バルトネラ属)

### ◆ポイント

- ・猫から感染し, ノミが媒介する
- ・猫の掻傷やノミの吸血により感染
- ・猫では一般的に無症状だが, 人では, リンパ節の腫脹(リンパ節炎)を起こし, 重症化することがある



## 重症熱性血小板減少症 (SFTS) 人獣

病原体:SFTSウイルス  
※マダニによる媒介

### ◆ポイント

- ・犬, 猫, 鹿・イノシシなどの野生動物が保有し, **マダニの吸血**により媒介される
- ・発熱, 元気消失, 白血球・血小板減少などを認める
- ・マダニが多くいる場所での肌の露出は極力さける
- ・感染動物の看護の際には个人防护に努める

※SFTSだけではないが…

⇒スタンダードプリコーション

すべての動物の体液には感染の可能性があという意識のもと, 普遍的に行う个人防护のこと



## オウム病 人獣

病原体:クラミジア  
⇒**細胞内寄生菌:宿主細胞内で増殖可能**

### ◆ポイント

- ・セキセイインコを始め愛玩鳥の保有率は高く, 感染源として重要!!
- ・感染鳥の排泄物を介して飛沫感染が主で, 口移しでの給餌など過度な接触によっても感染する
- ・鳥では不顕性感染もおおいが, 症状を呈することもある
- ・人では, 発熱, 頭痛, 倦怠感などのインフルエンザ様症状, 重症化すると呼吸器症状を呈し死亡することもある

## 猫白血病ウイルス (FeLV) 感染症

病原体:猫白血病ウイルス(FeLV)  
⇒エンベロープ持つ, RNAウイルス  
※レトロウイルス科に属する

### ◆ポイント

- ・感染猫との接触や**グルーミング**によって感染, 飛沫も問題
- ・リンパ腫や白血病になると, 発熱, 元気消失, 体重減少などがみられる
- ・胸腔内に腫瘍が形成されると, 呼吸困難・開口呼吸を呈する
- ・無症状だが, ウイルスを排出し続けることがある(不顕性感染)

ELISA法  
(イムノクロマトグラフィー法)



## 猫コロナウイルス感染症

病原体:猫コロナウイルス(FCoV)  
⇒エンベロープ持つ, RNAウイルス  
※猫腸コロナウイルス, 猫伝染性腹膜炎(ウイルス)

### ◆ポイント

- ・猫伝染性腹膜炎(FIP)の原因ウイルスでFCoVの強毒株と考えられている
- ・FCoVが何らかの刺激により伝染性腹膜炎ウイルスへ変化する
- ・FIPは通常「水平伝播」しない
- ・FIPはウェットタイプ(Ⅲ型アレルギー; 腹水や胸水)とドライタイプ(Ⅳ型アレルギー)に分類される

## レプトスピラ症 人獣

病原体:レプトスピラ菌  
⇒らせん菌(スピロヘータ)  
血清型で分類(たくさん)

### ◆ポイント

- ・ほとんどの哺乳類が感染する
- ・保菌動物はげっ歯類で, 尿中に排泄された菌によって汚染された土壌から経皮的に感染する
- ・感染すると無症状のこともあるが, 発熱, 食欲不振, 黄疸, 腎不全, 尿毒症などの症状を呈する
- ・秋やみ, ワイル病などの疾患がある

⇒家畜伝染病予防法(所管:農林水産省)において, 犬での発生を認めた場合は届出が必要



## ブルセラ症 人獣

病原体:ブルセラ菌  
⇒桿菌

### ◆ポイント

- ・保菌動物との交尾による接触感染, 飛沫感染, 汚染飼料の接種
- ・犬に流産を起こす
- ・多くは無症状だが, オスでは, 精巣や前立腺の腫脹/萎縮がみられることがある
- ・殺菌が不十分な乳製品の喫食による感染もある
- ・繁殖障害を起こすことから繁殖犬などで問題になる